

◎ 社團法人同盟通信社第六回通常社員總會議事錄

昭和拾四年六月貳拾壹日午後壹時拾分ヨリ東京市麴町區丸ノ内參
丁目拾四番地東京會館ニ於テ當社第六回通常社員總會ヲ開催ス

總社員

壹百八拾壹名

此ノ表決權

五千八百四拾票

出席社員（委任狀共）

壹百拾八名

此ノ表決權

四千八百零貳票

社長岩永裕吉議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和拾四年六月七日附第六
回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニ付議事ニ入ルベキ旨
ヲ告ゲ

一、報告事項

(イ) 昭和拾參年度事業及決算報告ノ件

社團法人 同盟通信社

議長ヨリ別紙昭和拾參年度事業及會計報告書ノ内事業報告ニ
關シテハ朗讀ヲ省略シ會計ニツキ報告スベシトテ之カ内容ヲ
詳細ニ説明シタリ

(ロ) 昭和拾四年度豫算報告ノ件

議長ヨリ昭和拾四年度ノ一般會計並ニ同特別會計ノ計數ヲ詳
述シ更ニ新規事業トシテ

一、一般會計

一、支那支局新設計畫

二、支那無線聯絡網擴充計畫

三、海外支局新設計畫

四、海外支局擴充計畫

五、國際記者養成計畫

六、海外通信蒐集機關ノ擴充計畫

七、國內通信蒐集機關ノ擴充計畫

八、國內通信網ノ擴充計畫

九、對外無線放送擴充計畫

一〇、ニュースノ國內無線放送計畫

一一、航空機常置計畫

特別會計

一、寫眞部擴充計畫

以上ノ大要ヲ説明シタリ

二、定款第貳拾壹條第壹項第貳號ニ依ル理事並ニ同第貳拾七條ニ依ル監事任期滿了ニ付改選ノ件

議長ハ定款第貳拾壹條第壹項第貳號ニ依ル理事

社團法人 同盟通信社

山田 金次郎 氏（東奧日報社）

小坂 武雄 氏（信濃毎日新聞社）

清水 芳太郎 氏（九州日報社）

進藤 信義 氏（神戸新聞社）

ノ四氏並ニ定款第貳拾七條ニ依ル監事

福田 英助 氏（都新聞社）

ハ昭和拾參年拾貳月拾六日任期滿了セルモ定款第貳拾參條第四項ニ依リ本總會迄任期ヲ伸長サレ又殘餘ノ同號ニ依ル理事

伊豆 富人 氏（九州日日新聞社）

一力 次郎 氏（河北新報社）

林 政武 氏（北國新聞社）

三氏ハ昭和拾四年六月貳拾壹日任期滿了ニ付同號理事缺員五名

ヲ併セ理事拾貳名及監事壹名ノ選舉ヲ行フベキ旨ヲ告ゲタリ
右ニツキ社員田中齊氏發言ヲ求メ定款ニ依ル選舉ヲ省略シ議長
並ニ理事會長、同副會長ヲ銓衡委員トシテ新理事ヲ選定セシメ
テハ如何トノ動議ヲ提出シ議長ハ之ヲ議場ニ諮リタル處滿場異
議ナク右動議ニ贊成シタリ
依テ銓衡委員ニ舉ゲラレタル

議長	岩永裕吉
理事會長	田中都吉
同副會長	野中楠吉
同	柏岡清勝

四氏ハ別席ニ於テ評議ノ上左記理事拾貳名、監事壹名ヲ總會ニ
報告滿場異議ナク可決、選定サレタル理事監事ハ何レモ就任ヲ
承諾シタリ

社団法人 同盟通信社

△定款第貳拾壹條第壹項第貳號ニ依ル理事拾貳名

山田金次郎	(東奥日報社長)
一力次郎	(河北新報社長)
小坂武雄	(信濃毎日新聞社常務取締役)
林政武	(北國新聞社長)
進藤信義	(神戸新聞社長)
伊豆富人	(九州日々新聞副社長)
田中秋聲	(旭川新聞社長)
井上廣居	(秋田魁新報社長)
小柳調平	(新潟毎日新聞社長)
後川晴之助	(日出新聞社長)
末光鉄之助	(關門日々新聞社長)
藤安新之助	(鹿兒島朝日新聞社長)

△定款第貳拾七條ニ依ル監事壹名

福田恭助（都新聞副主幹）

終ツテ議長ハ第六回通常社員總會ノ議事ハ全部終了セル旨ヲ告
ゲ同日午後貳時閉會ヲ宣シタリ

右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和拾四年六月貳拾壹日

議長

岩永裕吉

出席社員

郭中楠

同

高屋原伴

社団法人 同盟通信社

昭和十三年度事業及會計報告書

法人團

同盟通信社

一、昭和十三年度

(自昭和十三年四月一日起至昭和十四年三月三十一日)

事業報告

本期ハ前期ニ引續キ支那事變ノ戰局進展ニ伴ヒ多數從軍特派員ヲ増派スルト共ニ通信機關ノ整備殊ニ機械化報道陣ノ強化ヲ計リ以テ「ニュース」ノ速報ニ萬全ヲ期シタリ。就中昨夏皇軍ノ南支バイアス灣敵前上陸並ニ廣東、漢口、南昌等ノ要衝攻略ニ際シテハ全機能ヲ發揮シ速報ニ努メ又前記各地ノ重要「ニュース」寫眞及映畫ハ當社航空機ヲ以テ空輸シ即時參加各社ニ配給セリ。

一方内外通信網ノ擴充ニ於テハ海外支局ヲ桑港及河内ニ増設シ其數合計三十二局ニ達シ其他世界ノ重要都市ニ特派員ヲ常置セシメ自主的通信網ヲ作成スルニ至リ又國內専用電話幹線ノ延長ヲ計リ北ハ札幌ヨリ南ハ鹿兒島ニ至ル縱斷専用線及大阪金澤間ノ専用線ヲ加ヘ總キロ數四千七百軒ニ達シ「ニュース」ノ集配、電送寫眞ノ送受ニ一層ノ便益ヲ享クルニ至レリ。

其他本期間中ノ主要事項左ノ如シ。

一、役員ノ異動

昭和十三年五月 七日 理事杉山幹氏(東京日日新聞社)辭任シ後任トシテ高田元三郎氏理事

ニ就任。

昭和十三年六月二十七日 理事森田久氏（九州日報社）辭任。

同 六月二十八日 御手洗辰雄氏（京城日報社）定款第二十一條第一項第一號ニ依ル理事ニ就任。

進藤信義（神戸新聞社）清水芳太郎（九州日報社）兩氏定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事ニ就任。

同 九月二十七日 理事山根文雄氏（京都日日新聞社）逝去。

同 十二月八日 理事矢上以久三郎氏（小樽新聞社）辭任。

同 十二月廿七日 社長岩永裕吉、常務理事畠山敏行、同古野伊之助三氏任期滿了（十二月二十六日）ノ處再選就任。

昭和十四年一月十七日 理事片岡直道氏（日本放送協會）辭任シ後任トシテ關正雄氏就任。

同 二月二十四日 常務監事古賀傳吉氏（日本放送協會）任期滿了（二月二十三日）ノ處再選就任。

一、社員總會

本期間中開會スルコト左ノ如シ

昭和十三年六月二十八日 第五回通常社員總會

一、理事會

本期間中開會スルコト左ノ如シ

昭和十三年六月二十八日 第十二回理事會

同 十二月二日 第十三回理事會

昭和十四年二月二十八日 第十四回理事會

一、本期末ニ於ケル社員數

前期末即チ昭和十三年三月三十一日現在ニ於ケル社員數ハ二百〇三社ナリシガ本期間中六社新ニ加盟ヲ見タル一方合併、廢刊其他ニ依ル退社十社アリタルタメ本期末ニ於ケル社員數ハ總計百九十九社ナリ。

一、本期末ニ於ケル社員以外ノ通信購讀者數

前期ハ支那事變ノタメ支那ニ於ケル通信購讀者皆無ノ處、治安ノ恢復ニ伴ヒ漸次増加ヲ見ルニ至レリ。

内地 支那 計

新開通信	九六	二七一	三六七
經濟通信	一、二三四	六五	一、二九九

一、職制一部變更ノ件

- (イ) 支那事變ノ進展ニ伴ヒ中南支ニ於ケル通信總轄ノ必要上上海支社ヲ廢止シ同地ニ中南支總局ヲ設置セルニ付之ガ職制ノ一部改正ヲ爲シ昭和十三年四月一日ヨリ實施セリ。
- (ロ) 本社内處務ノ敏活ヲ計ル爲メ聯絡局發送、タイプ兩部ヲ内信局ニ移管セルニ付職制ノ一部改正ヲ行ヒ昭和十三年五月一日ヨリ實施ス。

- (ハ) 本社聯絡局ニ技術部新設ニ伴ヒ職制ノ一部ヲ改正シ昭和十三年七月十五日ヨリ實施シタリ。

- (ニ) 北支總局經濟部廢止ニ伴ヒ職制ノ一部ヲ改正、昭和十三年八月五日ヨリ實施ス。

- (ホ) 當社ノ機構擴充ニヨリ従業員ノ増加竝ニ支那戰線ノ擴大ニ伴フ人事ノ異動等人事關係事務劇增ノタメ本社總務局ニ人事部新設ニ付職制ノ一部ヲ改正、昭和十三年十二月二十八日ヨリ實施シタリ。

一、海外支局ノ新設

海外通信網ノ擴充ヲ圖ル爲メ左記支局ヲ新設シタリ。

桑港支局 (昭和十三年四月事務開始)

河内支局 (同 九月 同上)

一、國內支局ノ新設、廢止

國內通信網擴充ニヨル支局ノ新設竝ニ經濟通信購讀者減少等ニヨリ廢止セル支局左ノ如シ。

新設

札幌支局 (昭和十三年四月一日)

廢止

尾道支局 (昭和十三年十二月末日)

姫路支局 (同 十二月末日)

濱松支局 (昭和十四年三月末日)

前橋支局 (同 三月末日)

一、市外専用電話線ノ新設

- (イ) 大阪支社、金澤支局間ノ専用電話線ハ昭和十三年四月一日ヨリ開通セリ。

- (ロ) 福岡支社、熊本及鹿兒島支局間ノ専用電話線ハ昭和十三年十二月一日ヨリ開通ス。
- (ハ) 東京本社、青森、函館及札幌支局間ノ専用電話線ハ昭和十四年一月二十四日ヨリ開通シタリ。
- 右ノ結果當社ノ市外専用電話線ハ北ハ札幌ヨリ南ハ鹿兒島及長崎ニ至ル縱斷専用線及北陸、四國ニ至ル専用線ヲ加ヘ總延長四千七百キロニ達スル國內専用電話幹線ノ完成ヲ見タル次第ニシテ「ニュース」蒐集配給上多大ノ便益ヲ享クルニ至レリ。

一、航空機運航ニ關スル件

支那ニ於ケル皇軍活躍等ノ戰況ヲ初メ専ラ空輸ニ賴ルヘキ幾多ノ重要ニュース寫眞及映畫激增ノ爲メ當社ハ右對策トシテ昭和十三年九月三菱製最新型國產優秀航空機壹機ヲ購入、直ニ事變關係ニュース寫眞、映畫フィルムノ空輸ニ着手活躍セシメタリ。

然ル處本機ハ昭和十三年十月三十日羽田日本航空輸送會社第一格納庫ニ於テ不慮ノ災禍ニヨリ燒失セルヲ以テ昭和十四年二月之ガ代用機トシテ中島式一九型單中翼、双發動機（八百七十馬力二基）短波無電機ヲ裝備セル渡洋最適機ヲ入手、必要ニ應ジ「ニュース」寫眞、映畫フィルム等空輸ノ爲メ運航中ナリ。

一、下津、花房兩社員社葬ノ件

- (イ) 寫眞部次長兼映畫部員下津久男ハ昭和十三年六月二十二日中支安慶附近ニ於テ職務ニ從事中敵彈ヲ受ケ戰死セルヲ以テ同年七月二日青山齋場ニ於テ社葬ヲ執行シタリ。

- (ロ) 映畫部次長花房末太郎ハ昭和十三年十月三十日南支（西江）三水附近ノ河上ニ於テ挺身職務ニ從事中胸部ニ敵彈ヲ受ケ急流ニ顛落シ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタルヲ以テ同年十二月十六日青山齋場ニテ同様社葬ヲ執行セリ。

昭和十四年三月三十一日現在

(イ) 貸借對照表

(昭和十四年三月三十一日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
資 産	部	負 債	部
現金	七、六四五四八	預り保證金	四、一二九三三
銀行預金	四〇八、七〇二七五	假受金	九、四七〇七八
諸預金	一一、二六八六七	未拂電信料	一五七、八七四二六
所有有價證券	九四六、四八〇〇〇	未拂諸經費	二〇七、六二八九一
保證有價證券	七七、九九〇〇〇	未經過通信料	一一三、七〇五一五
保證金	一六、八七四四八	借入金	三、五〇〇、〇〇〇〇〇
國內支社局手持現金	一〇、〇九二四六		
海外總支社局手持現金	九三、〇七九四七		
諸通信社立替金	二五、二四三三八		
未收社員分擔金	一三三、六三四四三		
未收諸通信料	七、八五五七五		
諸未收金	八五、一八六六五		
假拂金	六二、七一一七四六		
諸立替金	五、八四六八五		
什器及備品	四二八、四一〇〇〇		
家屋	五七、一五六〇〇		
土地	二四九、六六二〇〇		
事業權	一、四四八、八一五〇〇		
後期繰越缺損金	一六、一四七四〇		
計	四、〇九二、八〇八四三	計	四、〇九二、八〇八四三

(己) 收支計算書

(自昭和十三年四月一日
至昭和十四年三月三十一日)

收入之部		支出之部	
新聞通信收入	二、九三七、三二一五七	總體費	九三四、〇五七二三
經濟通信收入	八六八、〇五六二八	本社費	七九六、七五三五四
海外通信收入	一、二二七、二六一六三	國內支社局費	七七四、二六二一三
通信外諸收入	二五五、三三〇六九	海外總支社局費	一、三九一、六八〇七三
受入手數料	四五、一七〇一五	國內電信電話費	五七八、三三六二一
小計	五、三三三、一四〇三二	海外電信電話費	五二九、八五九一二
特別會計剩餘金繰入	六、四四六七三	支拂手數料	二四二、一四二四五
當期缺損金	一六、一四七四〇	諸資產償却費	三一、三五八九四
		繰越缺損金補填費	七七、二八四一〇
計	五、三五五、七三四四五	計	五、三五五、七三四四五

(ハ) 財産目録

(昭和十四年三月三十一日現在)

科目	金額
現金	七、六四五四八
銀行預金	四〇八、七〇二七五
諸預金	一一、二六八六七
所有有價證券	九四六、四八〇〇〇
保證有價證券	七七、九九〇〇〇
保證金	一六、八七四四八
國內支社局手持現金	一〇、〇九二四六
海外總支社局手持現金	九三、〇七九四七
諸通信社立替金	二五、二四三三八
未收社員分擔金	一三三、六三四四三
未收諸通信料	七、八五五七五
諸未收金	八五、一八六六五
假拂金	六二、七一一四六
諸立替金	五、八四六八五
什器及備品	四二八、四一〇〇〇
家屋	五七、一五六〇〇
土地	二四九、六六二〇〇
事業權	一、四四八、八一五〇〇
計	四、〇七六、六六一〇三

昭和十四年六月

同盟通信社

林	原	一	伊	柏	野	田	堀	上	古	畠	岩
									野	山	永
	田	力	豆	岡	中	中		田			
政							義		伊		
	讓	次	富	清	楠	都		碩		敏	裕
									之		
武	二	郎	人	勝	吉	吉	貴	三	助	行	吉

三	御	美	阿	小	小	山	山	築	高	高	田	河	萩	大	大
木	手	土	部	森	坂	本	田	田	田	石	中	村	野	森	島
七	洗	路	暢	七	武	實	金	欽	元	眞			元		一
郎	雄	一	郎	郎	雄	一	郎	郎	郎	郎	齊	徹	郎	實	郎
	辰	昌	太				次	次	三	五			太		

右審查候處相違無之候也

監常 漳 同 同 同 同 同 同 同

福古也關森進柴清清光

田 賀 藤 田 水 永
英 傳 正 一 信 勝 順 芳 眞
太

三郎治衛義兵雄吉助

五回國書補員照會諸華商政府二國總士等事
二、於總率二八
據貴會來函所載是日二條中列當也
及之國華總總平大員係三月

議之要點

國平派士大總

出之要點

國平派士大總

出之要點

國平派士大總

出之要點

國平派士大總

據貴會來函所載是日二條中列當也
及之國華總總平大員係三月

據貴會來函所載是日二條中列當也
及之國華總總平大員係三月

據貴會來函所載是日二條中列當也
及之國華總總平大員係三月